

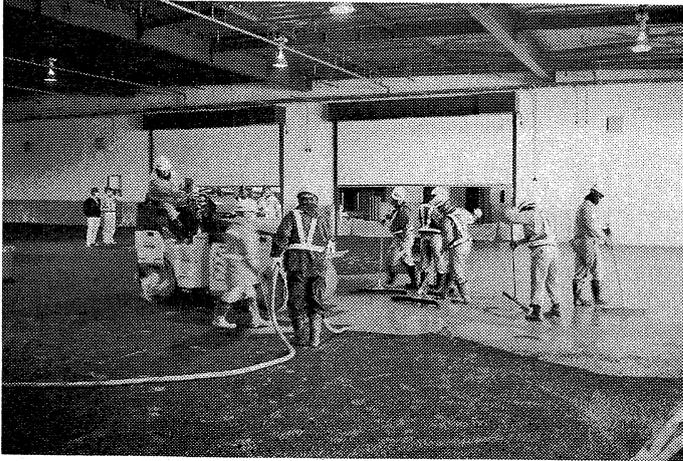
半たわみ性舗装

環境ラベル取得へ手続き

CO₂排出量15%減

NIPPO

NIPPOは、半たわみ性舗装の新製品「低炭素ポリシール」の販売を始めた。リサイクル材をベースにした低炭素型のセメントを主原料とする専用プレミックス材「低炭素ポリパック」を使っており、従来製品と比較すると、低炭素ポリシールは製造に伴う二酸化炭素(CO₂)の排出量が舗装体ベースで約15%少ない。事業活動のCO₂削減に取り組んでいる公共発注機関や民間企業に積極的に提案する。低炭素ポリシール、ポリパックについては、環境省が運用する「環境ラベル」の取得に向けた手続きを進めている。



低炭素ポリシールの施工

半たわみ性舗装は、開粒度アスファルトコンクリートの空隙に、特殊なセメントミルクを浸透させるもので、アスファルト舗装のたわみ性とコンクリート舗装の剛性を併せ持つ。交差点、大型車両が停車するターミナル、構内道路などに採用されている。低炭素ポリシールは、低炭素ポリパックに水を加えたセメントミルクを注入した舗装。コストと施工方法は従来の半たわみ性舗装と変わらず、CO₂排出量を少なくした。

低炭素ポリパックに利用する低炭素型のセメント

トは、製造時のCO₂排出量が普通セメントの8分の1程度。NIPPOはプレミックス材の普通セメントを低炭素型に置き換えることで、排出削減を実現した。同社のプレミックス材は、市販製品よりも製造時のCO₂排出量が少なく、市販製品と比べると低炭素ポリシールのCO₂排出削減

量は舗装体ベースで最大約30%になるという。舗装体に通常より30度低い温度で製造した中温化合材を使用し、低炭素型ポリパックを併用すれば、CO₂の排出削減量はさらに高めることができる。

NIPPOは、遮熱性舗装「パーフェクトクール」など3製品を環境ラベルに登録済み。低炭素ポリシールとポリパックは、環境ラベル取得の第2弾となる。同社は、登録手続きを進めつつ、CO₂削減を目指している。「環境未来都市」構想推進協議会」に参加する自治体や企業、環境配慮型の建物の計画者などにCO₂の削減効果をPRしていく。

日刊建設工業新聞
平成24年8月30日掲載